

情勢報告

高知大生に農業 PR!! ～中芸地区就農支援ネットワーク会が主催～



ナスってこんな風に実がなるんですね

11月7日と14日、中芸地区就農支援ネットワーク会が高知大学生との交流会を開催し、学生や関係者延べ24人が参加しました。

農業改良普及課は交流会に向けた企画・運営を支援しました。

交流会では、4町村が各町村の概要や農業についてPRしました。田野町では高知大学の卒業生が就農しており、就農に至った経緯を卒業生から聞いた後、ナスの栽培状況を見学し、後輩たちにしっかり農業をPRしてくれました。

生産現場を知らない学生も多く、「このホースは何のためにある?」、「どのくらいで収穫できる?」といった質問をしながら各地域の方々と交流しました。

次回は12月19日に、交流会の反省とともに、「新・農業人フェア(1月)」参加に向けての準備を行います。

新規就農者をしっかりサポート ～中芸支部園芸研究会ナス部会現地検討会～



新規就農者へベテラン農家や
営農指導員からアドバイス

11月21日、中芸支部園芸研究会ナス部会は、就農3年目までの新規就農者のほ場5か所で現地検討会を開催し、部会員14人が出席しました。

農業改良普及課は低日射量・低温によるナスへの影響などの厳寒期に向けた栽培管理の基礎的な内容を中心に指導し、営農アドバイザーや営農指導員からは整枝や温度管理を助言しました。また、新規就農者同士でも活発に情報交換がされ、新規就農者の栽培管理への理解を深めることができました。

農業改良普及課は、今後も園芸研究会やJA等関係機関と連携して新規就農者の育成に努めます。

市場事故がないように管理できていますか? ～集出荷場 GAP のチェック巡回～



小物類は箱にまとめて
異物混入を防ぎましょう

11月21～22日、農業改良普及課、園芸連及びJA土佐あき園芸課は、管内の全集出荷場（野菜8場、ユズ2場）で集出荷場GAPの取り組みをチェック巡回しました。

巡回では、参加機関が「集出荷場GAPチェックシート」に沿って「集出荷場GAP確認シート」を確認し、集出荷場長と一緒に生産工程の管理基準や方法を再確認しました。農業改良普及課は、集出荷場ごとに不十分な点への今後の対応や改善方法について指導しました。

農業改良普及課は、園芸連やJA、集出荷場と連携しながら、準拠GAPの取り組みを推進します。

ナスの料理あります!! ～6次産業化支援チーム会～



「4月17日は『なすび記念日』の
認知度を上げることも大事

11月30日、農業改良普及課はJA土佐あき本所で6次産業化支援チーム会を開催しました。安芸市の飲食店で行ったナス料理に関するアンケートの結果から、ナス料理提供店のマップをつくってナス産地をPRすることを検討しました。

毎月17日にナス料理を提供できる飲食店を安芸市の広報で募集することになり、農業改良普及課は広報の原稿を作成しました。

今後は飲食店の協力が得られようルールの設定やマップづくりに取り組みます。

これからの管理を考えよう! ～唐浜集出荷場研究会ナス部会現地検討会～



営農アドバイザーからのアドバイスを
熱心に聴く生産者

12月4日、唐浜集出荷場研究会ナス部会が営農アドバイザーを招いて現地検討会を開催し、4人の生産者が参加しました。

農業改良普及課は、収量・品質向上に向けた温度管理や病害対策などについて厳寒期の栽培管理を指導しました。また、営農アドバイザーから整枝・誘引について各生産者にアドバイスしました。

生産者からは「しっかり加温しないといけない」、「病害対策には湿度管理も重要」といった声があり、厳寒期の栽培管理のポイントを理解してもらうことができました。

農業改良普及課は、今後も部会活動や個別巡回を通じて収量・品質向上に向けた栽培管理を指導します。

ポンカンの収穫が始まりました!! ～果樹部ポンカン部会～



今年もうまいポンカンになってるやん

JA土佐あき果樹部ポンカン部会（生産者50名）は、光センサー導入と一元出荷体制が確立し、高品質生産への生産者の関心が高まっています。12月に入り、室戸市と東洋町でポンカンの収穫が始まりました。今年の収量は、昨年の豊作の影響で平年よりやや少なくなっています。

農業改良普及課室戸支所では12月6日にJAと合同で果汁分析を行いました。分析した結果、糖度は平年並みで、酸抜けはやや早い傾向でした。分析結果は生産者と関係機関に速やかに報告し、収穫時期や出荷計画に活用することができました。

農業改良普及課室戸支所は、今後は来年1月に果汁分析を再度実施し、その結果を出荷計画に反映させます。

温度は上げて、湿度は下げて!! ～花卉部安芸支部トルコ部会現地検討会～



ダクトの設置方法はこれでえい?

12月12日、花卉部安芸支部トルコ部会が現地検討会を開催し、生産者3人が参加しました。

農業改良普及課は、灰色かび病の発生が懸念されることから温度・湿度データロガーを活用して厳寒期の温度と湿度管理、温風ダクトや加温機の温度センサーの設置位置について指導しました。

生産者からは、「かん水した日はしっかり換気しとかないといかんね」、「寒いけど、ちゃんと加温の温度を高めて湿度を下げよ～」といった声が聞かれ、温度・湿度管理への理解を深めることができました。

農業改良普及課は、今後も病害虫の防除を指導し、トルコギキョウ産地の発展を推進します。

まずは集落ビジョンづくりから! ～集落営農塾(組織化)を開催～



若い人に帰ってきてもらう方法を
模索せんといかんね～

12月13日、組織化するうえで重要な集落ビジョンの作成について学ぶために集落営農塾(組織化)をJA土佐あき奈半利支所で開催し、管内の中山間直協定組織と関係機関等14人が参加しました。

まず、農業改良普及課から、集落ビジョンを作成する目的や作成方法を説明しました。その後、グループに分かれて、①集落の課題、②集落のいいところ、③夢・課題解決策の3つのテーマでワークショップを実施しました。

参加者からは、「地区外の人たちと交流して、この地区の事を知ってほしい」、「今日の話地域でもしてもらいたい」等の意見がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農塾を開催し、管内の集落営農の組織化に向けて支援します。

環境制御技術を導入しませんか! ～東支所管内の一斉個別巡回～



炭酸ガスで収量が伸びますよ!

12月13日と14日、農業改良普及課はJA土佐あき東支所、JA営農指導課と連携して、4班編成で、安芸市の川北、伊尾木及び下山の3地区のナス農家39戸の一斉個別巡回を行いました。内容は厳寒期の栽培管理や病害虫の情報等に加えて、環境制御技術について指導・周知しました。

環境制御機器に要望のあった農家からは、「周りから進められて炭酸ガス発生機を入れる予定」、「炭酸ガス発生機は入れるが、測定装置も追加したい」、「来年、新しいハウスを建てるときに炭酸ガスを考えている」と改めて導入の意思を確認できました。

農業改良普及課は、今後も部会や研究会活動だけでなく、個別巡回指導で、更なる環境制御技術の普及・拡大に努めます。

打倒褐斑病から更なる増収へ ～芸東集出荷場キュウリ部会の取組～



褐斑病の発生もなく順調ですよ

芸東集出荷場キュウリ部会では、29園芸年度から褐斑病対策として強度耐病性3品種の導入と、環境測定データをもとにした湿度コントロールによる発生抑制方法の検討に取り組んでいます。

農業改良普及課室戸支所は、品種ごとの生育特性及び発病度や収量性と、ハウス内環境を調査しています。12月中旬現在、どの品種にも褐斑病は発生しておらず、10月の天候不順の影響はあったものの、順調な生育を見せています。

農業改良普及課室戸支所は、環境制御技術による発病抑制並びに地域に適合した褐斑病耐病性品種を選定し、地域の収量アップに取り組めます。

NO MORE アザミウマ!! ～花卉部芸西支部トルコ部会の現地検討会～



これが噂の防虫ネットか!!

12月14日、花卉部芸西支部トルコ部会が現地検討会を開催し、生産者9人が参加しました。

トルコ部会員の防虫ネット設置率は低く、チャノキイロアザミウマなどの害虫侵入による被害と薬剤防除に苦労していることから、農業改良普及課は光反射資材織込ネットをサイドに設置しているハウスで実物を見てもらい、防除効果を説明しました。

生産者からは、「今までの防虫ネットに比べて目合いが大きいので、風通しが良さそうやね」、「うちもこれを設置して、散布労力と農薬費を軽減しよう」といった声が聞かれ、物理的防除資材の導入について意識啓発が図られました。

農業改良普及課は、今後も病虫害の防除を指導し、トルコギキョウ産地の発展を推進します。

2回目の収穫に向けて抜かりなし!! ～花卉部芸西支部ダリア生産者の現地検討会～



年明け後も忙しくなりそうや!!

12月14日、花卉部芸西支部のダリア生産者が現地検討会を開催し、生産者2人が参加しました。

農業改良普及課は、2回目の収穫に向けて、水・肥培管理、温度管理、電照時間等の指導をしました。

生産者からは、「昼間の温度をもう少し高くしよう」、「今からは毎週追肥せんといかんね～」といった声が聞かれ、栽培管理について意見を交換することができました。

農業改良普及課は、今後も栽培管理を指導し、ダリア産地の発展を推進します。

厳寒期の収量UPを！ ～安芸支部園芸部園芸研究会ナス部会営農相談日～



積極的な重油投資は無駄じゃないね

12月15日、安芸支部園芸部園芸研究会ナス部会員75人を対象に安芸集出荷場で営農相談日を開催し、農業改良普及課はJA土佐あき営農指導員と連携して厳寒期の栽培管理について指導するとともに、来年1月に開催する環境制御技術普及促進事業の説明会をPRしました。

気温が低下しても暖房の使用を控える生産者もいる中、「油の値段は上がっても暖房をしっかりと焚いて、炭酸ガスも入れて、ナスを取らんといかんね」と前向きな意見も聞くことができました。

農業改良普及課は、今後もJA営農指導員と協力して月1回の営農相談を通して栽培のポイントを指導し、ナスの品質向上・収量UPに繋がります。